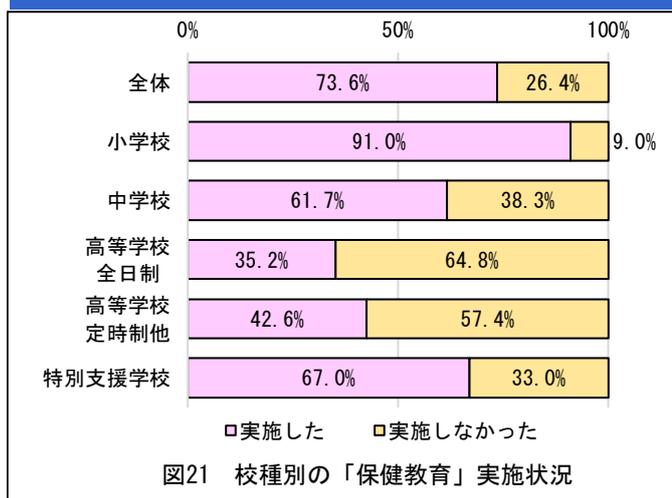
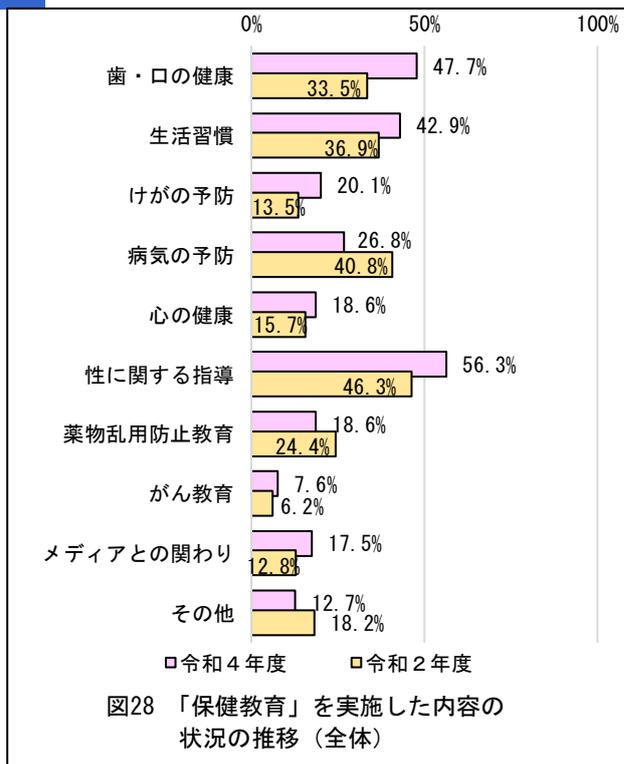


4 保健教育（集団を対象にした指導）の実施状況



校種別「保健教育」実施状況の割合は、小学校が最も高く、次いで特別支援学校、中学校と続く。

実施した保健教育の内容は、全体で「性に関する指導」の割合が最も高く、「歯・口の健康」「生活習慣」が続く。「歯・口の健康」「性に関する指導」は、前回調査と比較して10ポイント以上高い。「がん教育」は他の項目に比べかなり低い。



5 ICT活用推進の状況

表17 校種別ICT活用で今後実施したいものの状況

	小学校	中学校	高等学校 全日制	高等学校 定時制他	特別支援学校
保健教育の教材・資料の作成	84.8%	74.4%	59.6%	64.0%	80.7%
保健に関する各種調査やアンケート	81.1%	85.7%	78.1%	73.0%	63.4%
子供・保護者との健康相談	12.6%	14.6%	16.7%	16.4%	14.5%
各種研究会・研修会の参加	54.9%	52.6%	54.0%	52.6%	54.4%
校(園)内外のWEB会議	35.1%	34.6%	32.5%	28.3%	37.9%
WEBを活用した保健情報の発信（HP、メール等）	28.0%	32.2%	43.5%	41.3%	30.8%

校種別ICT活用推進で今後実施したいものの割合が高いのは、全校種で「保健教育の教材・資料の作成」「保健に関する各種調査やアンケート」「各種研究会・研修会参加」であり、校種によって割合に差がみられる。

ICT活用推進に必要なことは、「ICT活用のための研修・実践交流」の割合が経験年数に比例して高くなり、特に「10年以下」に比べ「31年以上」は19.5ポイント高い。

6 新型コロナウイルス感染症対策

（1）コロナ禍3年目 子供の健康に関する心配や懸念の状況

心配や懸念で「強くある」＋「ある」の状況

全体で最も高いのは「学校（園）生活での感染拡大の危険性」で、次いで「ゲームやインターネット過剰使用の影響」「マスク装着の影響」と続く。

校種別では、全校種で「学校（園）生活での感染拡大の危険性」が最も高く、次いで小学校・中学校・高等学校定時制他で「ゲームやインターネット過剰使用の影響」、高等学校全日制・特別支援学校で「学校行事の縮小・中止に伴う意欲の低下や経験の機会消失」と続く。

（2）新型コロナウイルス感染症対策で困難な状況

「とても困難」＋「困難」の状況

全体で最も高いのは「校内での抗原検査キットの活用・PCR検査の実施」（新規回答選択肢）で、次いで「登校後の体調不良者への対応・隔離」「子供の心のケア」と続く。

前回調査に比べ割合が高いものは、「子供の心のケア」で、次いで「休校中の健康状態の把握」「子供の感染症治癒後、後遺症の対応」が続く。

前回調査に比べ割合が低くなったものは、「感染症対策に必要な物品に関すること（準備・購入）」「登校時の健康観察の徹底」である。